随筆リレー 487

青年会議所という学び舎

考え方と伝え方を磨き、人と深く関わり合うことから逃げず、自らの意思で人生を切り拓（ひら）いていく〝自由〟を手に入れる場所。

今年で発足から49年目を迎える阿南JC（青年会議所）は、自分の住む地域の豊かさとは何かを追求し、その実現に向けて行動に移すことで、結果として自己成長や人脈形成につなげようとする40歳までの男女が集う。経営者、サラリーマン、政治家などのさまざまな分野で活躍する若者が会し、議論と行動を共にする。

私たちの活動は、平たく（大そうに）言えば「まちづくり」だが、誰から頼まれたものでもない。もちろん直接的な見返りも発生しない。それなのに悲しいかな、周りから単なる社交場であるとの誤解も受けやすい。だからこそ、ストローの穴から広く世界を見つめるように想像力を働かせ、自らの活動に対する〝誇り〟と〝おこがましさ〟の両面を忘れず、まちに溶け込む組織と私自身でありたい。

と、何だか堅苦しい物言いだが、追求したいことの核心は〝楽しさ〟と〝面白さ〟にほかならない。サラリーの発生しないこの活動に多くの仲間が集い、課題へと挑む原動力としてこの２つが存在する。

10代の頃に頭を悩ませた「生きることの意味」を意識しなくなってどれくらい経つだろう。再び自分の根っこに向き合い、「学校でも職場でも教えてくれないこと」を理事長という役職を通じて得る学校生活も今年で最後となった。

次は、羽ノ浦町の前川達哉さんにお願いします。

富岡町
表原 立磨さん

市民文芸

短歌
阿南市文化祭短歌大会 選

安楽死なりしと聞きて救はるる互いに八十路半ばのわれら　青木新太郎

青空に黄金の穂波を立たせつつ風はかすかに秋の香を持つ　森　歌子

朝顔が今朝は六つと夫の呼ぶそんな日常今より始まる　松島　博子

傘に聞く雨音柔し初秋の山の向こうに薄日さしおり　西條　悦子

鈴虫の鳴くがに風鈴南部鉄はるけし旅の甦（よみがえ）り来る　賀上　花子

年金と不透明なる曇り空保証なき日を自転するもの　吉永賀代子

繁茂する草の中より露草が過保護な人間涼しく見てる　宮崎喜美子

俳句
阿南市俳句連合会 選

水温む空の青さを映しけり　鳥海　勇二

田も畑も水の流れも春めける　鶴羽　竹子

老いたればなほ身綺麗に寒の紅　数藤　君子

水仙や白一色の崖をなす　阿部てるみ

地球自転後戻りせし春の寒　長田　千津

出迎えは梅一輪と鳥の声　藤本　絹代

接待の火鉢出さるる札所かな　車田マサ子

餌咥（くわ）え子に運ぶ犬春寒し　田中ゆり子

頬染めて歌う新年セニヤ会　樫原さつき

蠟梅（ろうばい）の香を誉めてよりあいさつを　金本ひろみ

川柳
阿南川柳会 髙木旬笑 選

爺ちゃんと孫の背丈は反比例　橋本　征介

三度まで許してくれる仏顔　岡本　福笑

ご馳走はないけど君が側にいる　西田　修身

ひと声でこころ閉じたり開いたり　佐藤つたえ

生きてきた証をつづる重いペン　臣守　愛香